

防災教育班  
令和元年度のまとめ

# 防災教育班の発表の流れ

1. 防災教育班の方針
2. 授業見学・マイテーマの発表
3. 防災教育班の課題・来年度に向けて

# 1. 防災教育班の方針

## 防災教育班

世代を超えて生きる防災教育 -3.11から学び、子供に自分ごととして考えさせる-

### 目標

#### ① 防災教育の目的を再確認する

- ・防災教育を通して子供に身に付けさせる必要がある資質・能力を確認する。
- ・各地方自治体や教育委員会などが学校・教師に防災教育で何を求めているかを調べる。

#### ② 防災教育の実状を確認する

- ・現在と過去でどのような防災教育が展開されているかを確認する。
- ・防災教育を通して教師が子供に何を身に付けさせたいのかを調査する。

#### ③ 自分たちなりの防災教育を考える

- ・防災教育で伝えるべき内容をまとめる。
- ・防災教育の指導方法を考えたり教材を作ったりする。

## 令和元年度の活動内容

- (1) 防災教育に関して各自治体などが発行している資料を読む
- (2) 防災教育の指導案を読む
- (3) マイテーマに関する調査  
例) 特別支援教育における防災教育、東日本大震災を知らない子供たちへの防災教育、自然がもたらす恩恵
- (4) 学校における防災教育の見学

## 2. 授業見学・マイテーマ発表

2019年10月30日 岩沼市立玉浦中学校

## 3学年 理科 単元名「自然と人間」 第3章「自然の恵みと災害」

### 〈指導内容〉

- ・水害に関して資料やデータと関連づけて確認
- ・洪水や浸水など水害の増加の原因を考察
- ・土壌の違いによる浸透の違いを見る演示実験

### 〈指導の工夫〉

- ・2年次に学習した内容に触れながら復習
- ・学区の立地を踏まえた学習
- ・環境保全の観点も含めたまとめ



2019年12月11日 名取市立関上小中学校

## 「災害から身を守る(大雪)」 小学1年生～小学6年生 防災タイム(朝会)

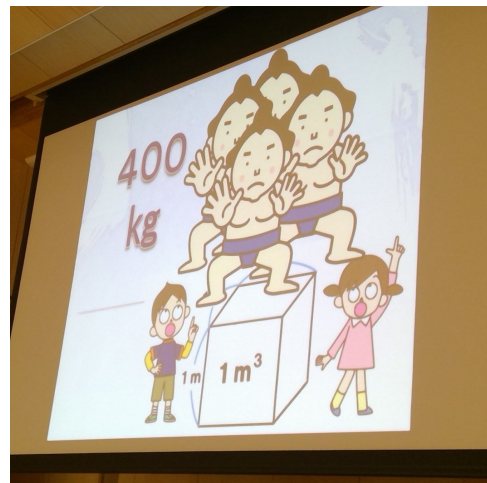
### 〈指導内容〉

大雪の時にどのようなことに気を付けるのかを学習

- 落ちてくる雪に気を付ける
- 事故に気を付ける
- 歩き方に気を付ける

### 〈指導の工夫〉

- ・ 雪には楽しさと危険の両方の側面があることを認識させていた
- ・ 一方的に伝えるのではなく、クイズや問いかけなどを通して、雪の危険性について考えさせていた(過去に積もった雪の高さ、雪の重さ、雪が降り気温が寒くなった時の道路の様子など)
- ・ 「自分の命は自分で守る」といった自助の意識を持たせていた



# 〈校内での取り組み〉

- ・防災リュック(水・食料品・薬など)制作
- ・防災ビルとしての活用(子供・保育園児・地域住民)
- ・太陽光発電や蓄電池の設置
- ・浄化装置を用いて、プールの水を飲料水に
- ・家庭科室にIHとガスを設置  
(IHとガスの片方が止まっても、もう片方が使えるように)



# 〈校長先生・副校長先生より〉

- ・震災を忘れさせない
- ・子どもの命を守るために必要なことを考え実践  
(災害だけでなく、事故なども)
- ・あらゆる災害について学ばせる  
(将来、子供たちがどこに住むか分からない)
- ・3本柱:「震災の事実を伝える」「自分の命は自分で守る」「地域を知る」





## マイテーマ1: 自然がもたらす恩恵

### 防災教育

- ① 地震・津波・洪水・大雪 などのメカニズム
- ② 地震・津波・洪水・大雪 などに対する予防

自然は  
怖い!!



## マイテーマ: 自然の恩恵

→自然が決して悪いものではないということを示す

### 福島県教育委員会(2017)「ふくしま 放射線教育・防災教育指導資料(活用版)」

学校で自然災害を取り扱くと、子どもたちに臨場感を与えるために、自然の恐ろしい面、人間に大きな被害を与えるネガティブな面が強調されがちなこともあります。確かに人間の力を超えた自然のダイナミクスを知って、畏敬の念が育つことは重要です。しかし、自然は人間に災いより、大きな恵みを与えてくれることが多いことも子どもたちに気付かせましょう。自然は、日常的には、自分達に様々な物理的な資源や観光・レジャーなどの精神的な恩恵を与えてくれます。自然の災害と恩恵の二面性に着目させていかななくてはなりません。(中略)

(p.149, 下線部は引用者が付け加えた)

## 東京書籍での事例

- ・ 小学校 低学年 生活  
「ふゆをたのしもう」  
→「ゆきやこおりであそぼう」  
例) そりすべり、ゆきがっせん
- ・ 小学校 中学年 社会  
「わたしたちの生活と環境」  
→花見・紅葉狩り・スキー
- ・ 中学校 技術  
「エネルギー変換に関する技術」  
→風力発電・太陽光発電など



## 考えられる授業例

- ・ 小学校 高学年 家庭科  
「夏をすずしくさわやかに」  
→グリーンカーテンや打ち水によって、空気の温度を下げるができる
- ・ 中学校 理科  
「大地の変化」  
→火山によるエネルギーによって温泉に入ることができる
- ・ 福島県喜多方市立塩川中学校  
裏磐梯の噴火や植樹などの学習  
→「(中略)自然の恩恵に感謝し、ともに生きる精神を育成する」

## マイテーマ:各教科での防災教育の取組

- ・各教科、道徳、特別活動等、教育活動全体を通じて体系的、計画的な指導が行われていない。
- ・自然災害の性質から対策までを学ぶことができ、自然と人間の関係のような内容まで踏まえた単なる災害の現象論に留まらない防災科学教育プログラムの開発が不十分である。

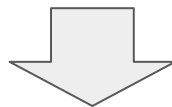


宮城県内の小学校において、各教科での防災教育がどの程度実施されているのかについて以下の2つを比較・検証した。

- ・防災教育に関する平成29年度の各教科内での年間実施時間
- ・東京書籍の平成27年度年間指導計画作成資料

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
各教科	2.2	2.4	2.0	3.2	4.5	4.2
東京書籍	0	0	0	9	10	11
実施率	/	/	/	36%	45%	38%

・高学年(4～6年)では、東京書籍の年間指導計画作成資料内で予定されていた授業時数の半分以下の実施率であった。



**各教科での防災教育の取組が不十分である**

## 各教科の内容・単元内で防災に関係づけられる部分で行う

例)・2年 算数 「ながさをはかろう」  
て、単位の変換に関する問題を作成する。  
るけど、何センチメートルになるかな？」

津波の高さを用い  
「津波の高さは5メートルにな

・3～6年 理科 実験時  
した場合の事故防止や予防の対応方法について考える。

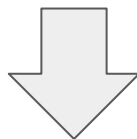
実験中に地震が発生

・5・6年 家庭科 ミシンによる製作活動  
を作成し、その活用方法について考える。

非常持ち出し袋

# マイテーマ：防災教育の実態

- ・防災教育＝「避難訓練」というイメージ
- ・『防災教育に割く時間がない』という学校もある



学校現場で行われている防災教育を調べよう！

調査方法：文献調査

# 宮城県・気仙沼市の取り組み

- ・県内全ての公立小・中学校・高等学校に「**防災主任**」を公務分掌として位置付け
  - ・「**安全担当主幹教諭**」を配置
  - ・「**みやぎ学校安全推進計画**」を策定
- 今後5年間で取り組む具体的施策と目標
- 『6 東日本大震災の教訓の継承』

東日本大震災時の気仙沼市の概要

震災時、6054名の小中学生がおり、12名の犠牲者

→小中学生の生存率は99.8%

学校管理下における犠牲者は無し

○学校管理下で犠牲者が出なかった理由として挙げられる要因

- ・激しい地震動
- ・避難訓練の実施
- ・チリ地震津波の経験者の存在
- ・**ESDの実践効果**

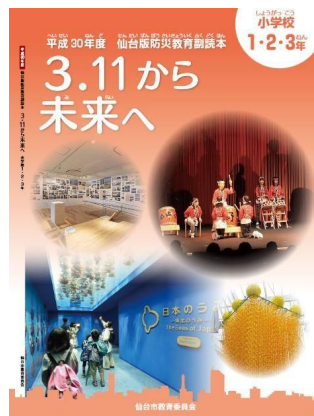
# まとめ

・主に「総合的な学習の時間」で防災教育を実践

→地域差が生じている？

○防災教育副読本の活用等、

短時間でも授業の中で防災教育の内容を取り上げる





# マイテーマ：特別支援学校の防災教育（猿田）

## ☆ テーマ設定の理由

→ 「インクルーシブ防災」ということばについて

→ 特別支援学校で防災教育のカリキュラムが具体的に組み  
ていない??

# 調査！

## ①文献調査1

→「東日本大震災と特別支援教育～共生社会にむけた防災教育を～」 「災害時における高齢者・障がい者支援に関する課題」 「障害者市民防災提言集」

## ②東北福祉大の阿部利恵先生にお話を伺う

→福祉避難所、防災給食

## ③文献調査2

→「東日本大震災から学んだこと～石巻支援学校からのメッセージ～」

# 私のまとめ！

- ・「災害直後」「避難後」の二つの場面の困りごとに対応できるようにさせることが重要

- 「災害直後」はまず逃げる事を！

- 「避難後」の偏食の問題に関する阿部先生のヒント

## これからの課題、おわりに

- ・具体的にどんな指導や支援をしたら困りごとをなくすことができるか？

(ゼミでの取り組み)

ご清聴ありがとうございました！

# マイテーマ：被災地以外での防災教育

## 課題

他人事として災害を認識してしまう

## 解決策1

311など過去の災害の実態を見せる、教える

※ただ恐怖を与えるだけにならないように、「何をすべきか」を考えさせる

例) ・どんなところに避難すべきか

・どんな備えをしておいたら良いのか

## 解決策2

地震・土砂崩れ・水害など身近なところに多様な災害の可能性がある

ことを知ってもらう

語り部 雁部那由多さん 「災間」である意識をもつ

→いずれ必ず何らかの災害に遭ってしまう可能性が高い

みんなが過去の災害と未来の災害の間に生きている

# まとめ

- 災害について知ってもらう

被災地以外に住む人たちだけでなく、震災後新たに生まれた子どもたちにも

- 将来どこで生活するかわからないので多様な災害について知る必要がある
- 被災していないからこそ災害を「**自分事化**」させる

命を守るための防災教育にもっと力を入れていく必要がある

# マイテーマ 東日本大震災を知らない子供たちへの防災教育

東日本大震災を知らない世代・・・小学校2年生以下の子供たち  
この世代の子供たちへの防災教育において大事なこと

**「災害を自分事として捉えること」**

私の住んでいる地域でも  
起きるのかなあ

もうそんな災害は起こらないんじや  
ないかな

自分はきっと大丈夫

?

生まれる前のことだからよ  
くわからない





# この世代への防災教育の方法の提案

## 震災当時の話を年齢の近い人から聞く

- 震災当時小学生だった中高生に当時の話を聞いてみる
- 大人から話を聞くよりも話が入ってきやすい

## 実際に被災地に行く

- 実際に見に行くことで現実味を感じられる
- 印象に強く残る

## 身に付けさせたい意識

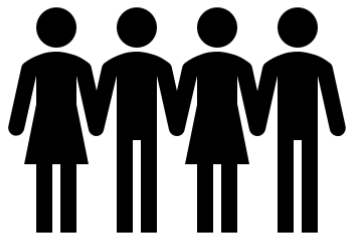
- ・災害はいつ起こるかわからない
- ・自分の地域で起こる可能性も十分にある



防災教育では、災害が起きたときにすべき行動や自分の身を守る方法を学ぶが、震災を知らない世代の子供たちには、その段階に進むまでに

**「自分事」**という意識づけが大事だと考える。

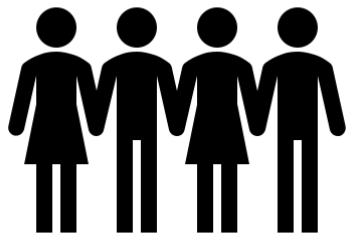
# 防災教育がひろく未来を考えよう



宮城教育大学 教職大学院  
高見 秀太郎

# 「防災」のかたち

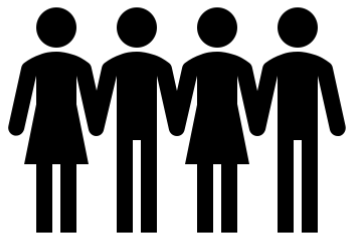
ハード



ソフト

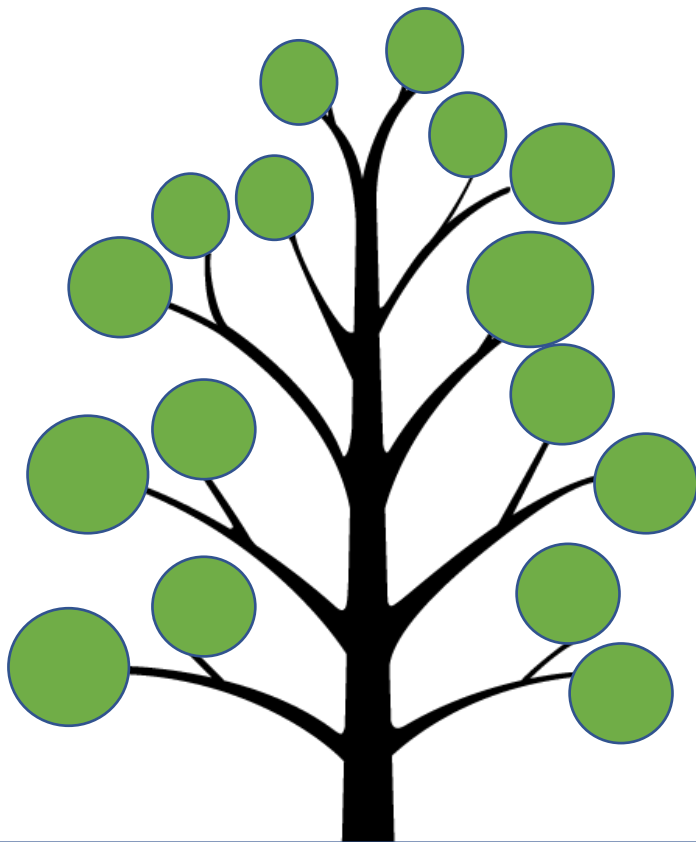
# 「防災」のかたち

いのち



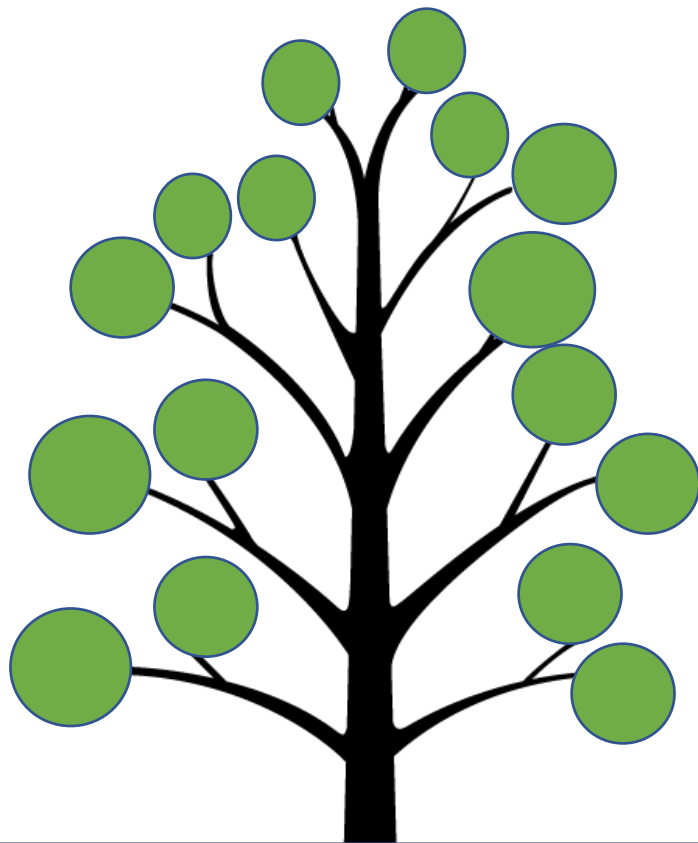
くらし

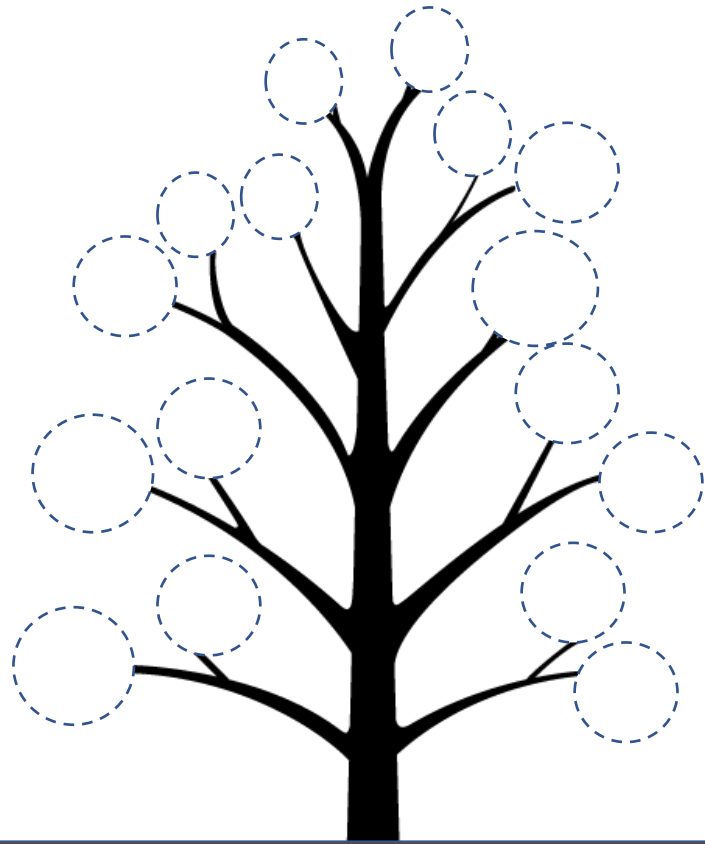
コミュニティ

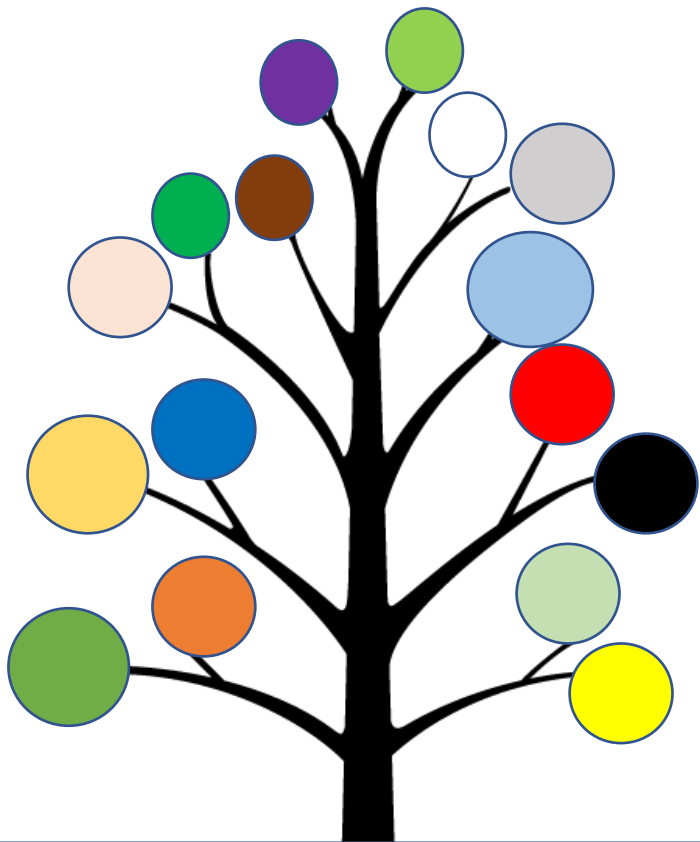


「当たり前」

「普通」

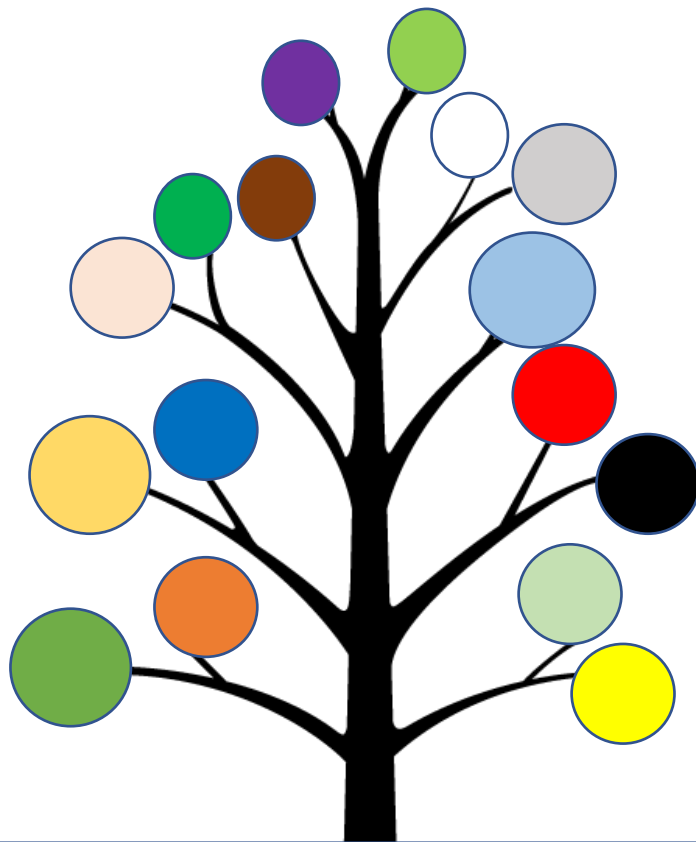






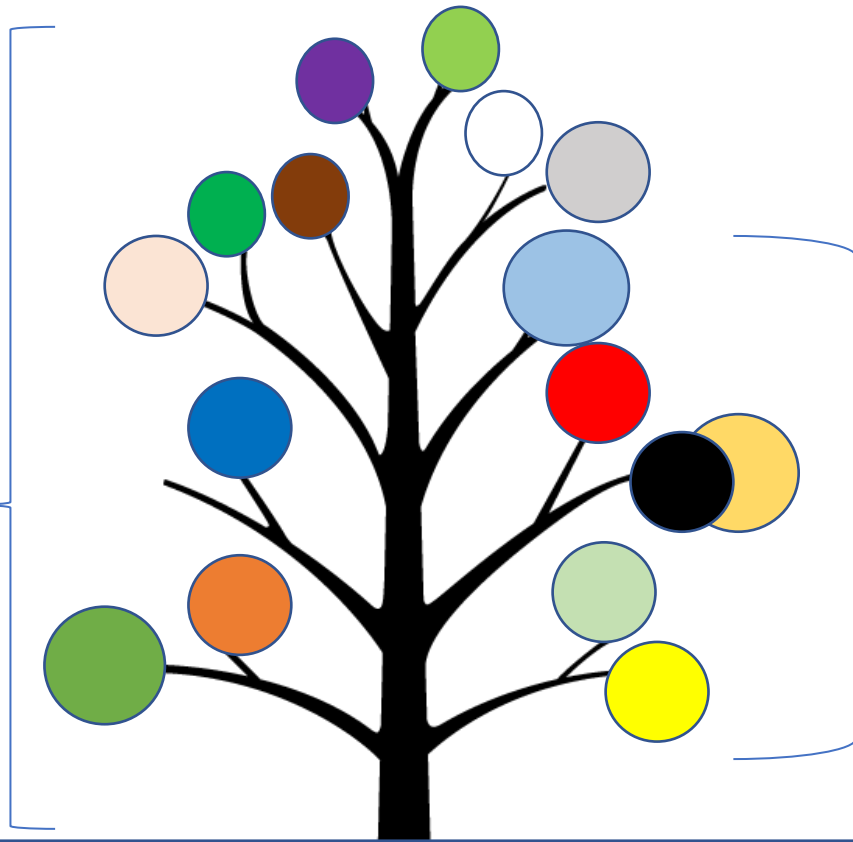


多様性を認め、  
活かす社会



国籍  
ジェンダー  
働き方  
家族  
地域  
食生活  
etc.

木



花

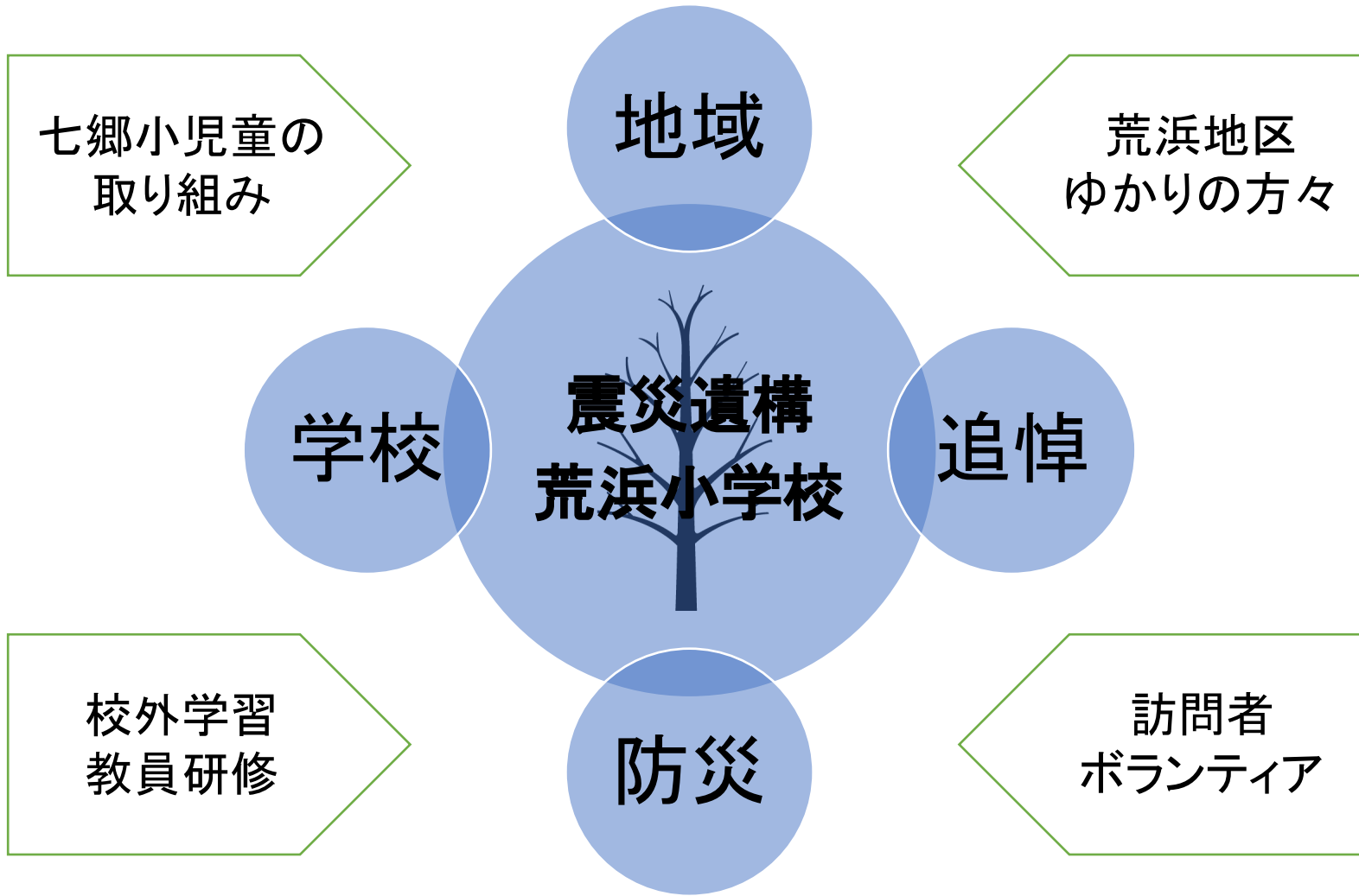
木

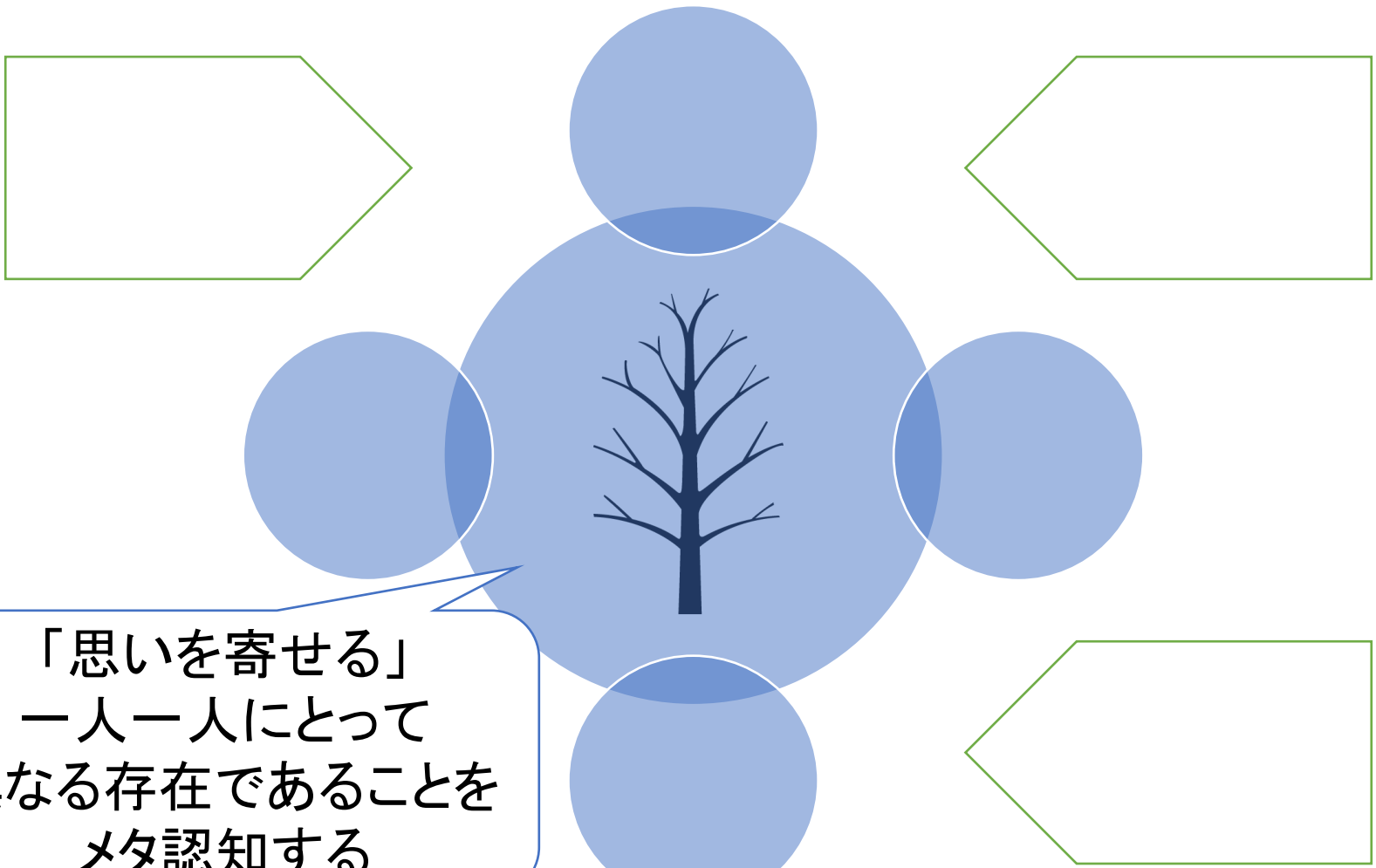
今、ここにしかない  
音楽体験を共有すること。  
時と場所を越えて  
音楽作品が共有されること。

花

非言語による表現の  
多様な可能性に気づくこと。  
自分の中や他者の感じ方の  
多様性に気づくこと。

ハード面の 防災	社会インフラとしての整備 (多重防御・避難施設 etc.)	立場に応じた支援と準備 (女性・子ども・障がい etc.)
ソフト面の 防災	仲間意識の醸成・つながりの深化 (地縁組織・体験の共有 etc.)	多様性の活用・つながりの再構築 (マルチステークホルダープロセス)





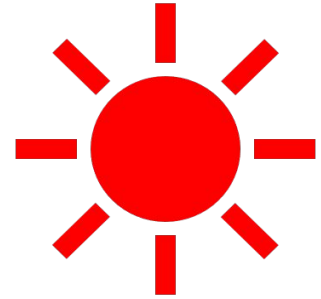
「思いを寄せる」  
一人一人にとって  
異なる存在であることを  
メタ認知する

答えのない問いに対し  
多様な価値観を認め合い  
その意味を深めていく。

「誰一人取り残さない」

社会の実現

(SDGs: 持続可能な開発目標)



### 3. 防災教育班の課題・来年度に向けて

#### 課題

#### 来年度に向けて

- ・実際の現場での資料が見付からない
- ・学校現場における防災教育をあまり知らない
- ・全員が一度に集まって話せるタイミングが少ない
- ・マイテーマの進捗状況を共有する機会が少なかった

- ・マイテーマ研究の続行
- ・授業見学の回数を増やす
- ・新たなメンバーを増やす
- ・地震や津波だけでなく、洪水や台風など多様な災害について考える



ご静聴

ありがとう

ございました